

る回路を動かすようにすればよい。表示器には次のデータが入る間、すなわち、データホールドと次のデータホールドの  $2t$  sec だけ静止データを表示することになるわけである。

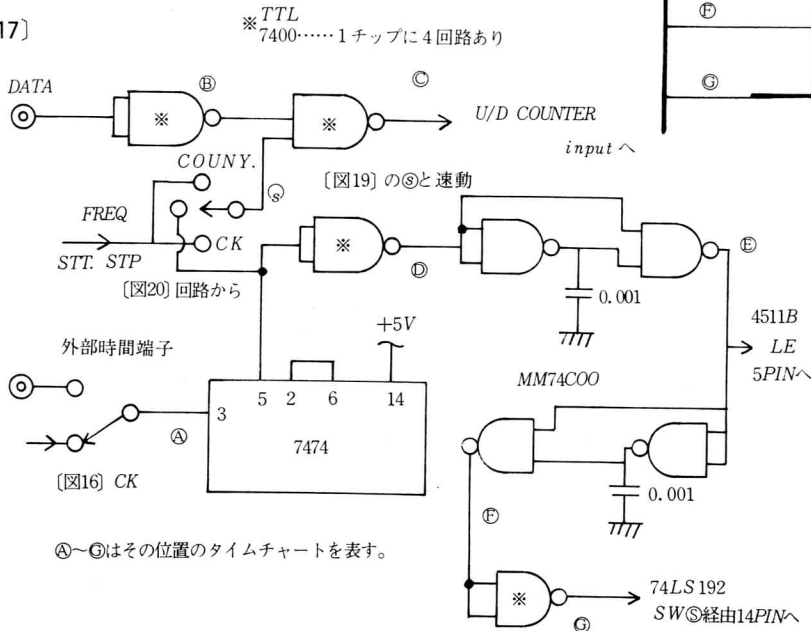
これを NAND 回路を用いて料理する。ディレイラインにはパルスの切れをよくするため、C・MOS・TC7400BP か M74C00 を用いるとよい。

ラッチ回路はたくさん並列にはたらかせるのでファンアウトの大きなデバイスが必要になる。

これに適しているのが TTL の 7400 である。各々適材適所を考えたわけである。〔図17〕

〔図17〕の回路による各部④～⑥の波形は、次の〔図18〕のようになる。この波形を作りだすのは 7400 と 74C00 の 2 個のデバイスである。

〔図17〕



④～⑥はその位置のタイムチャートを表す。

〔図18〕

